三三四四番

この月は　君来まさむと　大舟の　思ひ頼みて
いつしかと　我が待ち居れば　もみち葉の　過ぎ
て去にきと　玉梓の　使ひの言へば　蛍なす　ほの
かに聞きて　大地を　炎と踏みて　立ちて居て
行くへも知らず　朝霧の　思ひ迷ひて　丈足らず
八尺の嘆き　嘆けども　験をなみと　いづくに
か　君がまさむと　天雲の　行きのまにまに　射
ゆ鹿の　行きも死なむと　思へども　道の知らね
ば　ひとり居て　君に恋ふるに　音のみし泣かゆ

反歌

三三四五番

葦辺行く　雁の翼を　見るごとに　君が帯ばしし
投矢し思ほゆ